

バランスシート

【バランスシートとは？】

一定時点における事業の財政状態を示すため、一方に事業の有するすべての資産を、他方にすべての負債及び資本を、対照させた表です。

現行の地方公共団体の会計では把握できませんでした、経済活動結果の資産形成と負債等の財政状況を明らかにすることを目的としています。また、これは普通会計を対象に、総務省が示した基準に従って作成しています。

【各用語の意味】

〔資産の部〕

・有形固定資産

昭和 44 年度以降、市の予算で「普通建設事業費」として、購入した土地や造られた建物、道路等をいいます。土地は取得した当時の価格で評価し、土地以外は資産価値が 0 になるまで減価償却を行っています。

・投資等

公益法人、第三セクター等への出資金、各種貸付金、流動性の低い基金の現在高を計上しています。

・流動資産

流動性の高い基金や市税等の未収金を計上しています。

〔負債の部〕

・固定負債

流動負債より支払いの長いもので、1 年以上の期間で返す負債をいいます。

・流動負債

決算から 1 年以内に返さなければならない負債をいいます。

〔正味資産の部〕

一般財源や国・県支出金の累計額を計上しています。（企業においては資本に当たる部分です。）

【バランスシートの内容】

バランスシートによると、平成 18 年度の本市の資産合計は 414 億 8,483 万 6 千円、負債合計が 193 億 228 万 1 千円で、これらの差額である正味資産合計は 221 億 8,255 万 5 千円となります。

資産の部では、市民への行政サービス提供のための手段として、実際に投下された税等の額を表す有形固定資産が 378 億 2,018 万 4 千円で、資産合計の 91.2% を占めています。これを行政目的別に見てみると、土木費 45.8%、教育費 33.1%、衛生費 6.6% の順になっています。これにより、道路、街路、住宅などの社会基盤の整備、教

育施設の整備、ごみ処理・し尿処理施設の整備などの分野で、重点的に資産形成を進めてきたことがわかります。

また、平成17年度と比較すると、若干ですが増加しています。これは、平成15年度に策定した「財政健全化緊急3ヵ年計画」により、投資的事業を抑制してきましたが、八幡小学校の建替え及び福祉村用地の国からの取得により増加しています。

負債の部には、市民にとって将来世代にわたり負担となる費用を計上しています。このうち大きな割合を占めるのは地方債(負債合計の74.7%)ですが、そのうち6割程度が交付税で措置されることになっておりますので、その分を考慮すると、実質的な負担はもっと低い割合となります。

正味資産の部は、国庫支出金や一般財源といったこれまでの資産形成に使われた金額を表しています。将来的に返済の必要がない資産で、民間企業の資本金に相当しますが、この比率を見ることにより、世代間負担の指標とすることができます。平成17年度と比較すると、正味資産全体では1億1,388万5千円(0.3ポイント)上昇しており、将来世代への負担が僅かですが減少していることがわかります。

このように、バランスシートを通じて、今までは明らかにできなかった市の資産や負債に関する内容を把握することができ、今後の財政運営の指標にすることが可能になります。